

をして出様どもがいて居る、外の猿はしきりにキーキ
ー鳴いて外から戸を開けて助出そーと騒いで居る、そ
こへ以て例の獵師が出て来ると大勢の猿どもは、皆逃
げてしまふから、二三匹の猿が這入つてる箱を荷負う
て、ソロ／＼山を下りて歸るのでとぞ。

謎々

蚊が一匹ブーンと飛んできて、人の顔へたかつた。

そこでバチーッとして人の手でた／＼かれたが最期、蚊に取

つては(日本の國名一ツ)

東洋の聖人といふのは誰でしよー(御飯道具一ツ)

雨夜の三味線とかけて(文房具二ツ)

武士の喧嘩とかけて(郵便に使ふもの)

皆さん四ツ問題を出しましたから考へて御覽。とし

て、この次までに、答を送つて頂戴な。



家庭

子供と境遇

神門 とも

角立てる箱机など据え置きたる室に幼児を遊ばしめ
て「ソレアブナシ」と呼び養へたぎりたる鐵瓶の湯の沸
けと音せる火鉢の側のみどりして「ソレ火箸は弄ばぬ
ものぞ」と云う間に鐵瓶ひき倒うして火傷せしめ或は
與ふるを好まぬ菓子等其見得る處に置きてねだら泣
き出されて「仕方ナキ子ヨ」と云ひつゝ與ふる如きは世
の家庭にて多く見る處なり此他世に有勝なる嫁姑の間
の不和にして日として不満不平の顔を見ざるはなく常
には許さるゝ如きことも時としては嚴禁せられ若しく

は罰せらるゝ等祖母若くは母の機嫌界に左右せらるゝも間々見聞する所なり此の如き境遇にて養育せられたる兒の不幸如何計ぞや不知不識の間に於て日々の實驗は我儘強情不正直陰險等の悪性行を形作り來る實に等閑ならぬ事と云ふべきなり

大人にても常に善きものを見且聞けば自ら其感化を被りて善に移り悪しきものを見且聞けば自ら其感化を受くるを況んや蠟の如く柔かき頭腦を有する幼兒等は未だ善惡の差別なく只目に見耳に聞き手に觸るもの皆其好奇心に任せて見聞し摸倣して假令其印象は弱くとも着より落つる雨滴の墜き石をも穿つが如く漸く其深さを加へ行くを思はゞ其影響も一層大にして實に後來恐るべきものあり

其形ち作られたる性は善にもせよ惡にもせよ之れ皆其撫育者殊に主として其父母の作れる結果にして後

年其喜ぶ其患ふる處は皆是れ其自らなせる産物なりされば善き實を結ばんことを欲するものは須らく相當の注意を拂はざるべからず

其注意とは何ぞや種々あれども幼時に於て最も大なる影響を與ふるものは懇篤なる訓誨にあらすして其境遇なり其周圍の事情をして善良ならしむるにあり

幼兒の遊ぶ部屋は如何に飛ぶものはねるも傷くべき物もなければ、ざりとて又何物もなくして無聊に苦み惡戯に陥る様のともなく其室内にあるものは凡て幼兒の見、聞き手に取りて差支なきものにして與ふまじと思ふものは始めより置くべからざるなり從て與へて惡しと思ふものを強請せらるゝこともなく禁止の詞も多用せずして自然に大らかに生長すべし嘗て一年六ヶ月にして始めて我意を貫くことを學べる兒ありき其撫育者は眞によく愛育すれども一の注意を缺きたる爲に始

めは大らかにして怒りて泣く等のことなかりしに知恵の進むに従ひて火鉢の側に來り火箸を弄ぶことを覺え之れを止むれば泣きて之を得んとしたりき然るに撫育者は其泣きを止めん爲に之を許し又該兒は之れによりて泣きて我意を通すことを學べり後凡て己が意の如くならざるときは此方法を用ふるに至れり若し境遇教育の大切なることを知りたる撫育者ならんには決してかかる機會を作ることなかるべし實に大切なるは其境遇なり

此の如きは不從順の惡性を養成するに止まると雖も猶進みて一家内の不知則父母の間若くは親子の間に不調和なることあらんか實に忍ぶべからざるの性行は作り出さるべし不平、不正直、疑惑、殘忍、執拗等は皆此等の家庭より來る結果なり

一家の不和にも嫁姑の不調和、父母の不和の外に特

に其兒の爲に起るものあり則其兒の嘗て里子となりし爲に或は父母の手を離れ他の兄弟と離れて一人祖父母の手に人となりし場合ありかゝる時に於て假令程なくして親の手に歸るとも一般に父母は他兒と一樣に愛しむことをなさず幼兒も何となく遠慮する所ありて打解けがたく遂には父母にも祖父母にも偏頗なる處置起りて不和の媒となるものあり此の如き兒は父母の面前にては卑屈執拗にして天真爛漫たる處を缺き祖父母の前に出れば我儘至らざるなきに至る

又或家には嫁姑の不和の上に祖母は兄を偏愛して其妹を憎み他出のかへさに與ふる土産にも甲乙あり遊に連れ行くにも常に妹を殘し兩者争ひ合ふ時は常に原因を調べずして直に妹を叱責し不斷意地惡しき取扱をなしたる爲に遂には兄弟の間も争絶ゆることなく互に同情なきは勿論他に對しても人の惡しきとあると

悦ぶに至れり

嘗て悪性を有する二児の原因を調べたるに一は前者にして一は後者の境遇にあるものなりき而して其影響の及ぶこと多きは普通以上の頭腦を有するものにして愚鈍なる兒は少きを見る惜むべくいたましきことならずや

嗚呼一家の中春風吹き渡り且多少の教育思想を有し幼兒は善良なる事情の下に成長せしめざるべからずとの考あらば如何で今日我兒は不従順なり不正直なり酷薄なりとて歎くことの必要あらんや悪き種蒔きて後悔いんよりは蒔かざる前の注意こそ大切なれ

“Children are like wax to receive impressions, like marble to retain them.”

せんなにでも、なり易い所から云ふと、子供といふ

ものは蜜蠟の様だが、三ツ子の魂百までと云ふ方から見ると、また大理石の様だ。

何故泣かなくなつたでせう

松村 ひさ

私が世話をして居る幼兒の中に今六年五月月になる一人の男の兒があります。此兒は、正直で活潑な善い兒でありました。それに、昨年夏休後は前と打つて變つた不正直な亂暴な善くない兒になりました。あまり變り方がひどいものですから、其原因を探る爲にある日、親をよんで、うちの様子をさゝました。其親の言ひますに、

私の近所に百軒長屋といふ長屋がついて居ります。そこには、悪い子供が澤山ありますから、いつも遊ばせぬ様にして居りました。ところが、